

第5章 教育訓練、災害廃棄物処理計画の見直し

第1節 教育訓練

区は、本計画が災害時に有効に活用されるよう記載内容を職員に周知する。

また、発災後に迅速かつ適切に災害廃棄物処理を実施するため、区は具体的な方法等を検討した上で、災害廃棄物処理に関する訓練、演習を実施する。訓練、演習には関係機関の参加を求め、平時から担当者間の連携強化を図る。都、特別区が主催する訓練、演習へは積極的に参加し、必要に応じて合同で実施する。

訓練、演習を実施することで参加者の災害対応力を向上させるとともに実施後は本計画を検証し、必要に応じて見直しを行う。

また、訓練、演習は定期的・継続的に実施し、災害対応力の向上を図っていく。

<訓練、演習の方法（例）>

- ・本計画の周知、読み合わせ
- ・セミナー、講演会
- ・情報伝達訓練
- ・図上演習、机上演習

第2節 処理計画の見直し

本計画の実行性を高めるため、下記に該当する場合は、計画の見直しの必要性を検討し、適宜改定を行う。

また、計画の見直しの必要性を確認するため、東京都や他自治体の教育訓練の実施状況等の情報を収集する。

<本計画の見直しを行う場合>

- ・地域防災計画や被害想定が修正された場合
- ・関係法令（災害対策基本法、廃棄物処理法等）や関連計画、対策指針が改正された場合
- ・災害廃棄物処理の教訓や課題、対策事例等の情報を収集し、改善点が見られた場合
- ・教育訓練を通じて、本計画の内容に改善点が見られた場合
- ・その他本計画の見直しが必要と判断された場合

第3節 今後の取組

今後、本計画の実行性を高めるため、次の事項に取り組む。

<本計画に関すること>

- ・教育訓練を通じて、本計画の内容に改善点が見られた場合に見直し

<関係主体との連携に関すること>

- ・都、特別区との連携の強化
- ・民間事業者との連携の強化（協定締結や協定の見直し）

<生活ごみ・避難所ごみ・し尿に関すること>

- ・生活ごみ・避難所ごみの排出方法
- ・し尿（携帯トイレ・簡易トイレ）の排出方法

<災害廃棄物に関すること>

- ・地区仮置場を設置する場合の候補地の検討
- ・地区仮置場や仮置場の候補地の検討、関係者との事前調整
- ・片付けごみの排出方法
- ・事業者が取り組むべき災害廃棄物処理対策についての周知

<その他>

- ・災害廃棄物処理に関する情報（処理技術や連携体制）の継続的な収集

Column ▶ 区内における台風19号による災害廃棄物の処理について

令和元年10月に発生した大型で強い勢力の台風19号は、日本各地に甚大な被害をもたらしました。大田区においても最大時間雨量が28mmに及ぶ地域もあり、多摩川では計画高水位を超過し、田園調布四・五丁目地域においては浸水被害が発生しました。

現地においては、台風通過後、水が引くと同時に自宅の片付けが開始され、周辺の道路や丸子川沿いには、区が排出場所等を指定する以前から大量の片付けごみが排出されました。

今回の災害廃棄物の収集にあたっては、片付けごみの排出先としての地区仮置場の確保が困難であったため、ごみの分別と自宅前の公道等への排出について周知しました。この地域は住宅地のため道路幅員が狭く、地区仮置場とする適地となる公園等がなかったこと、また、既に多くの片付けごみが丸子川沿いや周辺道路に排出されていたため、臨時収集車両を可能な限り手配し、日曜日を含む毎日巡回収集を実施しました。また、大型家具等の粗大ごみ等は小型ダンプ車により収集し、近隣の多摩川緑地広場管理公社の駐車場に搬入し適切に分別した上で、中型プレス車に積み替え、清掃工場等清掃一組所管の中間処理施設に搬送搬入しました。

こうした対応により、総量400トンを超えた災害廃棄物等の収集は概ね10月末までに終了しました。

今回のケースでは、被災地域が区内の限られた地域に限定されていたこともあり、上記の手法により災害廃棄物の処理を行いました。

大田区と同様、今回の台風19号による浸水被害を受けた世田谷区では、被災地域が広範囲に渡ったため、仮置場を設け対応したとのことでした。

今後も、具体的な処理方法など23区間で情報共有しながら、いざという場合に備えていきます。



災害廃棄物等の排出状況



積み替え作業場所の様子